

平成 29 年度第 2 回志布志市まちづくり委員会 会議録

日時：平成 30 年 2 月 22 日（木） 午後 1 時 30 分

進行 中尾係長 開会のあいさつ

【会長挨拶】井上会長あいさつ

【委員紹介】中尾係長から紹介（委員 19 名出席）

【協 議】議事進行：井上会長

（ア）第 3 次男女がともに輝くまちづくりプラン・女性活躍推進計画・第 2 次対策基本プランについて説明：男女共同参画推進係

（質疑応答）

Q 1：安心して相談できる体制づくりにある関係機関とは。また加害者への対応は。

A 1：庁舎内では男女共同参画室、福祉課、国民健康保険係などになる。関係機関となると警察など。加害者への対応は基本的には被害者だけの対応（支援）となっている。例えばシェルターにはいらないといけない状態とかなるとその宿泊費等の予算は確保している。

Q 2：警察が入った場合の情報は入ってくるのか。

A 2：勿論被害者の情報が入ると加害者の情報も入ってくる。しかし、その先の深いところまでは入ってこない。

Q 3：市の職員で管理職に女性がいないのだが、何かあるのか。

Q 3：女性管理職は確かにいない。今女性活躍推進計画が策定されたので、特定事業主行動計画というのを策定しなくてはいけなくなり、市も策定している。目標数値として 6.5%で今の職員数に換算するとおよそ 2 人が必要となる。ただ、残念ながら今のところ管理職はいない。ただ、男女共同参画係としては管理職だけでなく係長級も登用するようお願いしているところではある。どちらにしても私たちの努力不足のところもある。

Q 4：職場において男女について不平等だと感じることは。

A 4：職場としては男性、女性とありますが、働く立場として不平等を感じたことはない。女性活躍の場として平成 28 年に女性活躍推進会議を立ち上げ 15 人ほどいる。女性の声を市政に届けるために内容を考えながらできれば女性議会などを開催できればと考えているところである。

Q 5：子育て支援ネットワークについては、子育て支援センターとあるが、有明町、松山町についてはどう考えているのか。

A 5：志布志は、はぐくみランド、有明は通山保育園に支援をしてもらっている、松山地区は現在そういったものがないところである。ただ、やはり合併しましたので、松山地区の方も志布志まで来てもらっているところである。2 地区ではあるが、広

く活動はできていると考えているが、ただ福祉課とまた話しあって、もっと子育て散歩カーなどの拡大をお願いしているところである。

(イ) 志布志市高齢者保健福祉計画及び第7期介護保険事業計画(案)について説明：介護保険係

(質疑応答)

Q1：保険料は毎月157円あがるのか。

A1：第6期6,163円だったので月額157円上げて月額が6,320円になる。

Q2：安心安全見守りたいの活動をしているがボランティア自身が高齢者となり8名で4世帯の方の対応をしている。こんな状況で難しく思っている。今後の展望をどう考えているか。

A2：ボランティアの方も少なくなって、大変厳しい状況だと感じている。配食事業をしているが、配達時に確認したりしてもらっている。また、地区社協というものがあってそこで各公民館の方々をお願いをして、要支援者や民生委員に介護者のや見守りをお願いしている。いつもと違う動きなどそういった挙動が見られた場合は連絡してくださいという体制をとっている。見守りについては構築を急がないといけないと考えている。2025年に団塊世代が75歳以上になるので地域包括ケアシステムを作りなさいといわれており、事業者や行政などが地域の見守りを組織的にこなしていくこの支援や今回の計画を生かして構築していきたいと考えている。

Q3：特定検診受診率は50パーセント強だと聞いているが、以前は各校区回っていたが、現在は少ない。検診場所の増加の検討はできないか。

A3：土日しかうけられない、その日受けられない方は期間中なら時間帯に合わせたりすると周知はしているが、周知が足りないように感じる。周知の仕方を工夫したい。課としては受診率60%を目標としており、様々な方法を考えている。若いうちから特定検診が必要と植えつけていけないと感ずている。巡回場所については検診車が大型である関係から現状のままでいきたいと考えている。御理解いただきたい。

Q4：保健課が様々な施策をしていることは知っている。ころばん体操など遠くの身内より近くの他人。生涯学習や宅配サービスなどもしているので、これからも様々な施策を行ってってもらいたい。

A4：わかりました。

Q5：特定検診の問題でどんな病気が多いのか。地区の受診状況は、30代や40代でも多くなってきているのか。また今後の高齢者への対応はどう思うか。

A5：高血圧、脳卒中、認知症、骨そしょう症、心臓病などがある。地区単位では特に志布志地区の受診率が低い。シルバーでも仕事の間を提供している。生き甲斐が感じられるような政策も考えている。

Q 6 : 市民への周知の方法の工夫は。

A 6 : 市報については国民健康保険の危機というテーマで、毎月警告記事を掲載している。毎月の市報をみていただきたいと思っている。